

図画工作科授業において児童にエンゲージメントを作り出す試み

Attempt to Develop Engagement for Elementary Students in Arts and Craft Lessons

森 裕二郎, 池田 誠喜

MORI Yujiro and IKEDA Seiki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 32 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.32, Feb., 2018

図画工作科授業において児童にエンゲージメントを作り出す試み

Attempt to Develop Engagement for Elementary Students in Arts and Craft Lessons

森 裕二郎, 池田 誠喜

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748 鳴門教育大学大学院
MORI Yujiro and IKEDA Seiki
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：本研究は、エンゲージメントに着目した授業を実践し、その成果と課題を検討することを目的とした実践報告である。授業の工夫として、(1)行動エンゲージメントの工夫、(2)感情エンゲージメントの工夫、(3)認知的エンゲージメントの工夫、の3つの手立てを計画し授業実践を行った。効果の検証のため、児童のエンゲージメント状態を測定するためのエンゲージメント尺度を作成し、同尺度を用いた検証と児童の振り返り記述を用いた検証を行った。結果、エンゲージメントの要素である認知的エンゲージメントに対する支援について効果が見られた。課題として、教師による児童のニーズの把握の必要性が示唆された。

キーワード：エンゲージメント 図画工作科 学校適応感

Abstract : This paper is a practical report aimed at practicing lessons of arts and crafts focusing on engagement and examining the outcomes and problems of practice. As a way of teaching, we practiced classes by planning three methods: (1) Behavior engagement, (2) Emotional engagement, and (3) Cognitive engagement. As a verification method, the engagement scale for measuring the engagement state was created and measured, and verification using the child's retrospective description was performed. As a result, it was effective for support for cognitive engagement which is an element of engagement. For further improvement, it was suggested that teachers are required to understand the needs of children.

Keywords : engagement art and crafts lessons Feeling of school adaptation

I. 問題と目的

1. 今日の課題

いじめ、不登校、学級崩壊など、児童の学校適応にかかわる諸問題は依然として大きな課題とされている（山口・下村・高橋・奥田・松寄 2016, 文部科学省 2014）。不登校やいじめなどの問題が深刻化する中、近年、生徒指導上の問題行動等に対する予防的取り組みのニーズが非常に高くなっている（山口ら, 2016）。その上で、児童が学校環境において適応感を持つかが、これらの生徒指導上の問題行動等に対する予防として重要であることが指摘されている（大重・渡部, 2008）。

学校適応感とは、個人と学校環境の関係から生じる感情や認知の総称であり、主観的な適応状態と考えられており、生活についての安心感や充実感及び疎外感の上位概念と捉えることができる（大久保, 2010）。多忙を極め、多様な働きが求められている教育現場では、教師と児童との間に十分な信頼関係が築けず、いきいきと活動

できていない児童に対して対処療法的な支援となってしまうなど、学校適応感を高めるための効果的なサポートが的確に行われていない現状がある。

このような状況を改善するための方法の一つとして、栗原ら（2015）の作成した学校適応感尺度「アセス」が参考になる。栗原ら（2015）は、学校適応感尺度「アセス」において、学校適応感に関わる要因を6つの因子で示し、その中の一つである学習的適応感と全体的な適応感を示す生活満足感因子との相関が強いことを示している。また、森ら（2017）が行った「アセス」（栗原ら, 2015）の追試調査結果においても同様の結果が示されており、児童の学習に対する意識を高めることによる学校適応感の改善が期待できるものと考えられる。

2. エンゲージメント

近年、学習に対する動機付けにかかわる概念として、エンゲージメント概念が注目されている（鹿毛, 2016）。鹿毛（2016）は、Reeveらの文献を引用しながら、エン

ゲージメントについて以下のように説明している。

エンゲージメントとは、課題に没頭して取り組んでいる心理状態であり、興味や楽しさを感じながら気持ちを集中させ、注意を課題に向けて持続的な努力をするような「熱中」する心理状態 (Reeve, 2002) である。つまり、進行中の活動において示される行動の強さ、感情の質、個人的な労力投入に関する統合的な心理現象を意味する用語でありコミットメント (主体的で積極的な関わり) に特徴づけられた心理変数として、活動や学習の「質」を規定するものと考えられている (Fredricks, Blumenfeld & Paris, 2004)。

エンゲージメントは、人と環境の間で、現在進行形で生起するダイナミックに変化する相互作用を心理現象の質として記述する概念であり、まさに、知情意が一体化した「今ここ」(here and now) での体験を意味しているといえる。より具体的には、①行動的エンゲージメント：どの程度、課題に注意を向け努力し粘り強く取り組んでいるか、②感情的エンゲージメント：どの程度、興味や楽しさというポジティブな感情を伴って取り組んでいるか、③認知的エンゲージメント：物事を深く理解しようとしたり、ハイレベルな技能を身につけようという意図をもったりして、自分の活動についてきちんと計画し、モニターし、自己評価するような問題解決プロセスとして取り組んでいるかという3つの側面があり、それらは統合的に機能する (Reeve, 2009)。

学校適応感に影響をもたらす学習への適応感とは、学習の方法がわかる、学習に対する意欲が高い、という意識に関係していると考えられるが、適応という言葉からは環境に馴化するような受身的にイメージされる。一方で、エンゲージメント概念は、「授業に対するやる気が出る」「継続して取り組む」といった、児童が積極的に環境へ働きかけることをイメージさせるものである。島井(2016)の、アクティブラーニングがエンゲージメントをもたらすものであるという指摘は、平成29年に学習指導要領で示された、「主体的・対話的で深い学び」の状態を示す指標となりうるものと考えられる。

以上のことを踏まえ、本稿では、児童が学習に対してエンゲージメント状態になることにより、学校適応感の向上が図られると考え、児童が学習に対してエンゲージメント状態となる授業を構想・実践し、その成果と課題を報告することを目的とした。なお、本研究で取り組む教科としては、学習習得の違いや苦手意識からくる不安を低減させるために、実技教科の中から図画工作を取り上げ、内容を、針金を主材料とした立体造形活動とした。

II. 方法

1. 研究対象及び期間

対象 公立小学校5年生104名 4学級
実施期間はX年6月～7月

2. 研究方法

- ・児童のエンゲージメント測定尺度の作成
- ・エンゲージメントを作り出すための授業構想 (計画)
- ・図画工作科の授業実践
- ・授業後の成果の検証

3. 調査方法

対象児童全員に、毎時間の授業後に作成したエンゲージメント尺度による調査と振り返りシートへの授業の感想の記述を行った。分析方法として、エンゲージメント尺度得点の比較と、振り返りの記述内容にみえる共通点を構造化し、エンゲージメントの状況を把握することとした。

1) 児童のエンゲージメント測定尺度

エンゲージメント尺度の項目選定、作成にあたっては、Lippman, Rivers (2008) 「Assessing School Engagement」、山岸 (2016) 「高校生のスクールエンゲージメント尺度の開発」で用いられた調査項目を参考に、項目の表現が児童に十分理解されるよう配慮した。項目内容は、教育学を専門とする大学教員1名および大学院生2名によって検討された後、エンゲージメント尺度6項目を選定した。(表1)。回答肢は、「とてもそう思う」5点・「そう思う」4点・「どちらとも言えない」3点・「そう思わない」2点「全くそう思わない」1点とした。

2) 各授業後の振り返りシートの記述

1時間目、2～3時間目、4時間目の3回と、各単元終了時の計4回、対象児童に授業を振り返らせ、授業の感想や自身の取り組み状況について振り返りシートに記述させた。分析は、共通する記述データをまとめてラベリングを行った後に、生成されたカテゴリーの意味について検討した。

表1 エンゲージメント尺度

() は、エンゲージメント要因

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 今日の授業は楽しかった。(感情)2. うまくいくように、やり方を工夫してみた。(認知)3. 思いついたことを自分から「やってみよう」と思ってやってみた。(行動)4. 新しいやり方やむずかしいかもしれないと思うことに挑戦してみた。(認知)5. つくっていて、時間が早く過ぎたように感じた。(行動)6. 次の授業を、楽しみにしている。(感情) |
|---|

4. 実践計画

1) エンゲージメントを作り出すための手立て

児童にエンゲージメントを作り出すための授業計画の立案に係わり、留意することを下記に示す。

- ・授業の内容が児童にとって魅力のあるもの、知的好奇心を喚起する題材であること
- ・授業の内容が簡単すぎず、難しすぎない、児童にとって適切な課題であること
- ・授業内の取組みや取組み方法を、児童が自分でいろいろと考えて工夫することができ、試行錯誤することができるものであること

これらの重点事項を踏まえ、取り上げる教科を図画工作科として進めることとした。

2) 具体的手立て

① 行動的エンゲージメントの手立て

行動的エンゲージメントは、「学習活動に参加する意欲」「能動的に活動する態度」などに関係しており、活動の見通しをもたせたり、活動内容を理解しやすいように説明方法を工夫したりすることにより、意欲的な活動を導くのに役立つと考えた。具体的内容を以下に示す。

- ・授業の初めに活動の手順を提示
- ・材料の加工方法やペンチの使用方法が分かりやすいように例を提示
- ・作品見本や作業方法を具体的な映像での提示
- ・針金以外の材料も自由に使えるように準備
- ・針金と他の材料等の組み合わせ方が分かりやすいように例を提示

② 感情的エンゲージメントの手立て

感情的エンゲージメントは、「授業が楽しい」「新しい事ができるようになるのがうれしい」「わかったりできた

りすることがうれしい」どの感情的な要因がしており、授業にエントリーするための動機付けを高める、「やってみたい」「おもしろそう」と思える導入を行ったり、努力や成果を認める働きかけを積極的に行ったりすることで、活動に対する関心を高める効果が期待できる。具体的内容を以下に示す。

- ・街の中にある線材で表現された事物を画像等で提示
- ・児童が考えた発想を学級全体に紹介
- ・児童のもつイメージに近づけるための具体的方法の提示
- ・児童の表現に対する肯定的な評価・授業の初めに活動の手順の提示

③ 認知的エンゲージメントの手立て

認知的エンゲージメントは、「思考を深める」「よりよいものを求めて工夫する」「新たなことに挑戦する」「課題の解決に向けて粘り強く取り組む」などの要因が関係しており、試行錯誤が生じるような、やや複雑な題材を用いたり、他者を参考に自身の作品を比較したりできるような場を設定するとともに、効果的な工夫の例を提示したりすることにより、自身の活動を深める。

- ・様々な表現例を提示したり、具体的な工夫例を提示したりし、試しながらつくるように促す
- ・つくりかえることでよくなっていくことがわかる表現例を提示
- ・やや高度な加工例を提示し、作業方法を具体的に示すことにより、工夫するための方略を示す

5. 授業計画 (表2-1, 表2-2)。

表2-1 授業計画

【1時間目】	児童の活動	指導者の支援
1 新聞紙を丸め、組み合わせでできる形を楽しむ。	<p>丸めた新聞紙を組み合わせてできる形を楽しもう。</p> <p>(1)新聞紙を丸めてビニル袋に入れ、粘着テープを巻いておもしろいと思う形をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビニル袋にテープをきつく巻くと、その部分が細くなるよ。」 ・「入れ方や巻き方で形が変わって、おもしろいね。」 ・「ビニル袋をいくつかつなげると、おもしろい形になるよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○街中等にある線材で表現された作品や指導者の作品例を提示し、活動の具体的なイメージをもたせるとともに、動機付けを行う。 ○針金を巻き付けて形をつくるために、新聞を使って形をつくることを伝える。 ○新聞紙は野球ボール程度の大きさに丸めるように指示する。 ○形に注目して取り組むように話す。
2 新聞紙の入ったビニル袋に針金をしっかりと巻き付ける。	<p>新聞紙を組み合わせてできた形に、針金が交差するようにしっかりと巻こう。</p> <p>(2)新聞紙でつくった形にアルミ線針金を巻き付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「太い針金と細い針金の両方を使って巻いてみよう。」 ・「いろいろな方向から巻くとしっかりと巻ける。」 ・「ペンチを使うと、針金をいろいろな形にすることができるね。」 	<ul style="list-style-type: none"> ○巻き付けた針金に、さらに交差するように巻いていくように方法を説明する。 ○ペンチの使い方や針金の曲げ方を具体的に説明する。 ○針金の切り口でけがをしないように、曲げておいたり、テープをはっておいたりするように伝えておく。

表 2 - 2 授業計画

【2～3時間目】

	児童の活動	指導者の支援
3 針金だけの形からイメージを膨らませて、次の時間につくるものをイメージする。	<p>新聞紙の塊を取り除いて、針金だけの形にしてみよう。</p> <p>(1) ビニール袋を切って新聞紙を取り出し、アルミ線針金だけの形にする。 ・「針金の隙間から、そっと新聞を抜こう。」</p>	<p>○針金の形が崩れないように、丁寧に新聞紙を抜くように伝える。</p> <p>○形が少し崩れても、再度ペンチで針金を交差させるとよいことを伝える。</p>
	<p>針金でできた形が、何かに見えないか考えてみよう。</p> <p>(2) 針金だけの形からイメージを膨らませて、つくりたいものを考える。 ・「魚に見えてきたから、もっと魚らしくなるように、目やひれをつけていってみようかな。」 ・「カボチャみたいに見えるな。針金でできた囲いの中に、何か入れてみたらおもしろそうだな。」</p>	<p>○次の時間に、針金でできた形に、新たな形を付け加えたり、別の材料と組み合わせたり、少し形を変えたりして、自分がつくりたいものをつくっていくことを伝える。</p> <p>○次の時間までに、家にあるもので使えるような材料を探しておき、持ってくるように伝える。</p>
4 針金でできた形がよりよくなるように工夫する。	<p>針金でできた形がよりよくなるように、試しながら工夫しよう。</p> <p>(1) 表現がよりよくなるように、形を変えたり、付け加えたりしていく。 ・「もっと恐竜らしくみえるように、うでや口の部分をくっつけてたしてみようかな。」 ・「針金にストローをつけると、その部分だけ感じが変わっておもしろいな。」 ・「くっついているうちに最初と形が変わってきたけれど、そのほうが前から見ても後ろから見てもいいようになったから、よかったな。」</p>	<p>○元の形が変わってもいいことを伝える。</p> <p>○針金でつくった別の形を付け加えてもかまわないことを伝える。</p> <p>○指導者が用意したり、自分をもってきたりした材料を組み合わせ、新しい形ができないか試すように促す。</p> <p>○思い通りにならなくても、元の形に戻すことができることや、別の見方ができるようになることを伝え、積極的に試行錯誤していこうとする意識付けを行う。</p>
	<p>針金でできた形から思いついたことを表そう。</p> <p>(1) 針金の形から思いついたことを表す。 ・「前の時間には魚に見えたけど、タワーにも見えるな。つくるものを変えてみようかな。」 ・「漂っているようにつるして、リボンを垂らしてみよう。」</p>	<p>○指導者の作品例を提示し、活動の具体的なイメージをもたせるとともに、動機付けを行う。</p> <p>○針金以外の材料（アルミホイル、ストロー、爪楊枝、綿、色紙、リボンなど）を準備しておき、自由に使えるようにしておく。</p> <p>○個の表現に応じた具体的な言葉がけをすることにより、夢中になって活動に取り組むことができるようにする。</p>

【4時間目前半】

6 改善できる部分がないかを考え、つくりかえ、作品を完成させる。	<p>最後にもう一工夫して、作品を完成させよう。</p> <p>(1) 自分のイメージに更に近づくように、形を変えたり付け加えたりして、作品を完成させる。 ・「ちょっとぐらぐらするから、しっかりと立つように下の方の形を変えてみようかな。」 ・「つくった鳥の卵を針金でつくって、横に置くようにしてみようかな。」</p> <p>(2) 完成させた作品つける題名を考え、題名カードに題名を記入する。工夫したところも短い文で記入する。</p>	<p>○少し時間をおいたことで、別の見方や工夫できそうなところが気づかないかと投げかける。</p> <p>○具体的な表現例を提示し、工夫方法を考えられるようにする。</p> <p>○題名カードを配付し、イメージを端的に表す題名を考えることを伝え、例を提示する。</p> <p>○カードに友達に見てほしいと思う工夫したことを書く欄をつくっておき、自分が工夫した点について振り返ることができるようにする。</p>
----------------------------------	---	--

【4時間目後半】

7 完成した作品を鑑賞し合い、お互いの表現のよいところを見つける。	<p>友達と完成した作品を見せ合って、いいところを見つけよう。</p> <p>(3) 友達作品を鑑賞し、見つけたよいところを鑑賞カードに書く。 ・「同じ丸い形なのに、地球に見えた人や卵に見えた人がいておもしろいな。」 ・「外側に取り付けるだけでなく、内側に小さな部品を入れるようにしているアイデアがすごいね。」</p>	<p>○友達作品を鑑賞して見つけたよいところを記入する鑑賞カードを配付し、積極的に鑑賞できるようにする。</p> <p>○友達の工夫したところに着目できるように、カードへの記入例を具体的に提示する。</p> <p>○自分が思いつかなかったことや、自分の表現との違いに注目して鑑賞するように伝える。</p>
-----------------------------------	---	--

III. 教育実践の実際

1. 授業の実際

【1時間目】

最初にインターネットで検索した針金アートの画像を電子黒板に提示すると、「針金でこんなことができるんだ」「やってみたい」という肯定的な反応が見られた。また、新聞紙とビニル袋による芯材の作り方について製作過程を実演して示したり、ペンチと針金の扱い方をDVDの映像資料で示したりしたことで、これからどのような活動を行っていくかを具体的にイメージすることができていた。児童は製作を行いながら、偶然できた形から発想を広げることができていた。「何にも見えない」とつぶやく児童や、道具の扱いがうまくいっていない児童には個別に声をかけて支援することにより、ほとんどの児童が時間内に目標とする段階までの製作を終えることができていた。

【2・3時間目 前半】

最初に授業者が製作した作品例を提示することで、児童のイメージを喚起するとともに、今後どのような活動を行っていくかを具体的にイメージすることができていた。児童が見つけた「〇〇に見える」という発想を全体に紹介し、板書に残すことで、友達の発想を参考にして製作をすすめることができる児童が見られた。表現方法についても、授業者が例を提示したり、児童が工夫した具体的な工夫例を紹介したりすることにより、よりよい表現を求めて試行錯誤することができていた。

【2・3時間目 後半】

この時間から針金以外の材料を組み合わせていく活動に入るため、針金や他の材料でつくったものを組み合わせる方法について、例を示しながら説明した。また、様々な材料を活用することができるように、教室の前方に材料置き場を配置した。これらの支援により、児童の活動意欲が向上している様子が見られた。また、前時に思いついたイメージをもとに発想を広げていけるように、前時の活動記録をもとに、個別に声をかけていった。

【4時間目 前半】

作品をよりよくするために工夫し、試行錯誤を行う時間であったが、イメージを膨らませられなかったり、活動に飽きてしまったりする児童が出はじめた。そこで、児童が表現したいと思っているイメージについて会話することで、イメージを明確にするとともに、イメージに近づくための具体的な方法をいくつか提示していった。この支援により、活動に対する意欲を減退させることなく取り組む様子が見られた。また、完成度の高い作品ができあがった児童に対しては、余分な材料を活用して、新たな部分や作品を作ってもよいことを伝え、最初の作品と組み合わせることを提案した。このことによっても、

児童は意欲を持続しながら活動することができていた。

【4時間目 後半】

作品がよりよくなるように、最後に工夫を加えて完成させる時間であった。つくりかえることでよくなっていくことがわかる表現例を提示したり、やや高度な加工例を提示したりして試しながらつくるように促すことにより、よりよい表現を求めて試行錯誤することができていた。単元の終末として、完成した作品を友達とお互いに鑑賞し合い、互いの表現のよさを味わう場を設定した。児童は楽しそうにお互いの作品を鑑賞していた。ここでは友達の表現の良いところを積極的に見つけるように促し、いろいろな角度から眺めることや、材料の使い方、発想の面白さなどに着目するという鑑賞の視点を提示したことで、意欲的に活動することができていた。

IV. 結果

1. アンケートの分析

エンゲージメント尺度6項目を用いて、1時間目～3時間目に測定（合計3回）したエンゲージメントの3要因の得点を合計し、1要因分散分析による平均点の比較を試みた。結果、有意差はみられなかった（表3、図1）。

次に、3つの要因の得点合計ごとに分散分析を行なった。結果、行認知的エンゲージメントに有意な差が認められた（表4、図2）。

2. 記述分析

1～4時間目のそれぞれの授業の振り返り記述のrawデータについて、共通する内容のデータをまとめてラベリングし、カテゴリー化した結果、1時間目では「自発

表3 エンゲージメント得点の分散分析結果

	1回目		2回目		3回目		自由度	F値
	M	SD	M	SD	M	SD		
エンゲージメント (行動的・感情的・認知的)	26.32	5.90	26.97	6.40	27.85	5.36	153, 118.49	2.02 n.s.

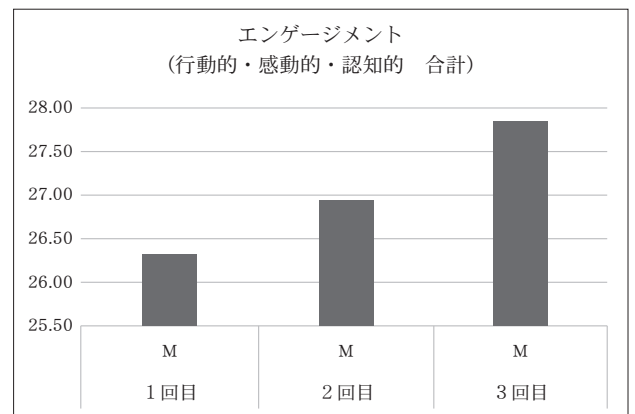


図1 エンゲージメント得点の比較グラフ

表4 3つのエンゲージメント要因得点の分散分析結果

	1回目		2回目		3回目		自由度	F値	
	M	SD	M	SD	M	SD			
行動的エンゲージメント	8.82	2.15	8.91	2.26	9.21	2.02	1.66, 128.23	1.12	n.s.
感情的エンゲージメント	9.47	1.76	9.31	2.11	9.49	1.73	1.39, 107.29	0.32	n.s.
認知的エンゲージメント	8.03	2.42	8.76	2.31	9.15	1.93	1.74, 134.08	7.55**	1<2=3

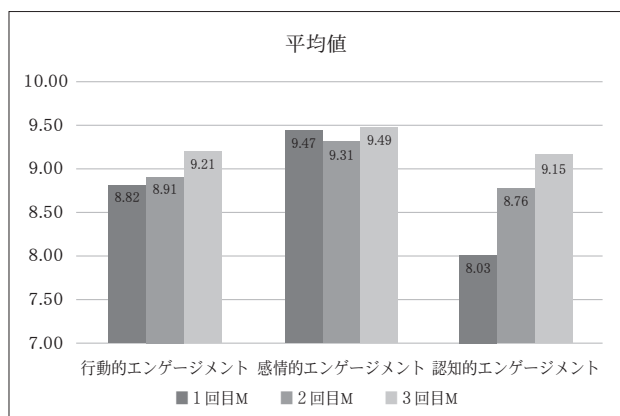


図2 3つのエンゲージメント要因得点の比較グラフ

的・能動的行動」, 「夢中・没入」, 「技能的満足感」, 「次時への期待」, 「イメージに近づける工夫」, 「独自の工夫」の6つのカテゴリーが生成された。

同様の手順により, 2時間目のデータからは, 「自発的活動」, 「能動的発想」, 「友達との関わり」, 「技能的満足感」, 「次時への意欲」, 「創意工夫」, 「挑戦」という7つのカテゴリーが生成された。

3時間目のデータからは, 「新たな材料を使うことによる意欲的行動」, 「達成感」, 「友達からの賞賛による充実感」, 「満足感と次時への意欲」, 「粘り強い取り組み」, 「挑戦の自覚」という6つのラベルが生成された。

4時間目のデータからは, 「能動的行動」, 「アドバイスに基づく行動」, 「他者とのつながりによる満足感」, 「完成による達成感」, 「次の活動への意欲」, 「粘り強い取り組み」という6つのカテゴリーが生成された。

さらに, 各カテゴリーを内容的に「行動的エンゲージメント」, 「感情的エンゲージメント」, 「認知的エンゲージメント」の3つの要因に分けて, 時系列に並べて, 授業の進行による児童のエンゲージメントの変化について検討した(表5)。

V. 成果と課題

1. 成果

成果と課題について, まず, 授業の様子から省察する。針金工芸を見本として提示した例を見て, 「すごい, 自分もやってみたい」という声があがり, 意欲的に取り組む姿が見られた。導入の工夫により児童の感情エンゲージ

メントが高まったものと思われる。一方で, 「何をつくったらいいか考えられない」とつぶやいている児童もいた。これらの児童に対してはニーズに十分に答えられなかったと考えられる。また, 肯定的な評価により, 指導者や友達に工夫が認められ, うれしそうに活動に取り組む姿が見られた一方で, 作品を作り込む前に飽きてしまい, 何をすればよいか分からない様子の児童もおり, 個別のサポートが十分ではなかったと考えられる。積極的に針金を加工したり, 他の材料と組み合わせたりする姿はよく見られた。これは, 認知的エンゲージメントについての支援が有効であったということが考えられる。また, 担任教師より, 図工がおもしろく, 次の時間(活動)が楽しみだという感想を日記に書いている児童がたくさんいたという報告を受けた。感情的エンゲージメントについての支援が一定の効果をみせたものと考えられる。

次に, 授業後のアンケート調査の結果から述べる。エンゲージメントの3つの要因のうち, 認知的エンゲージメントに対する授業の効果が見られた。手立てとして, 様々な表現例の提示, 具体的な工夫の例示, つくりかえることでよくなっていくことがわかる表現例の提示などを行った効果が現れたものと考えられる。一方で, 行動的エンゲージメントと感情的エンゲージメントに有意差が見られなかった。この2つの要因は, 平均が8.8以上の高水準であったことがその理由として考えられる。むしろ, 授業進行により値が下がらなかったことで, 授業の一定の効果が見られたものと判断した。認知的エンゲージメントは1時間目の水準が8.0で, 他の2つの要因と比較すると低かったことにより, 授業の進行により有意な結果が得られたものと思われる。

次に, 振り返り記述の分析から, 行動的エンゲージメントに関して, 1時間目は「自発的, 能動的」や「夢中」カテゴリーが見られたが, 2時間目は「友達との関わり」, 3時間目は「新たな材料を使うことによる意欲的行動」カテゴリーが生成されている。授業進行の効果による変化が見られており, 行動を起こすための動機が広がっていることが推察される。感情的エンゲージメントに関しては, 自分が考えていた以上の表現ができたことに対する達成感や, 友達に認められた満足感についての記述が多く見られた。しかし, 製作の途中で思い通りの形にならないことが原因となって, 作りかけの作品をばらばらにしてしまう児童もおり, その児童は記述にも「うまくできなくて, おもしろくなかった」と書いていた。活動では試行錯誤できることを重視していたので, ある程度をつまづきや失敗を経験することは想定していた。それらの経験を基に, さらに工夫していく面白さが感じられるようにしたいと考えていたが, 個別の聞き取りや支援が不十分であったと考えられる。前述の作品を壊してしまった児童に対しては, 授業後に話を聞くと, 作り直す

表5 振り返り記述のまとめ

	1時間目	2時間目	3時間目	単元終了時
「行動的 エンゲージメント」	<p>(自発的、能動的行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな感じのを作ろうか、考えながら作っていたら、いいものがつくれたからうれしかった。 ・ぼうみたくなったのですごく。先を丸く曲げるのが上手にできるようになった。(夢中・没入) ・早くできて、楽しかったから、20分くらいに時間が早くすぎたと思った。 	<p>(自発的活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと上手に作りたい。でも自分なりに考えて作れた。(能動的発想) ・みんなが作らないアイデアがひらめいた。 ・鳥のようにみえたので、鳥の足をつけてみた。(友達との関わり) ・友達が協力してくれた。 ・友達がツリーに見えると教えてくれた。 	<p>(新たな材料を使うことによる意欲的行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスの下に透明の色つき紙をやってみた。そのまわりにストローをはった。 ・スパンコールを貼り、針金に通してまきつけて、スパンコールがゆらゆら動くようにしました。 ・下にラップをまいて、その中に丸めてちぎったアルミホイルとビーズを入れて、そこを見ると、キラキラするようにしてみました。 	<p>(能動的行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とてもいろいろな考えがうかんできて、それを利用しているいろいろなカラフルな作品をつくったりできてとてもよかったです。 ・かわいい動物を作れたかったので、ラメやビーズなどをつけたり花をつけたりかわいく思い通りにできました。(アドバイスに基づく行動) ・先生に二つの針金をねじると強くなることを教えてもらってやってみた。
「感情的 エンゲージメント」	<p>(技能的満足感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくっていて、すごく楽しかったことは、針金をおりまげることです。 ・針金の巻き方が自分の思い通りにできてとてもうれしかったです。(次時への期待) ・初め、むずかしいと思っていたけど、かんたんのかなと思ったりして楽しかったです。次の図工がとても楽しみです。 ・とてもいい形ができました。次の時間が楽しみです。 	<p>(技能的満足感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作れたかった、ばねの形を作れたのがうれしかった。 ・じぶんができるかなと思っていたことができてうれしかったです。(次時への意欲) ・次の時間は一輪車の上に人間を作りたい。 ・次は家から材料を持ってきて、色、モールを付けて明るく工夫したい。不思議な形が作れたのでうれしかった。 ・次の授業が早く来てほしいと思った。次は、やり方を工夫しようと思った。うれしかったことは、自分の思うような形になったこと。 	<p>(達成感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーズがキラキラしていてとてもきれいにできたと思います。ストローもはいついてきれいだと思いました。 ・想像以上にできた。(友達からの賞賛による充実感) ・「すごい！」や「上手！」と言ってくれたのでうれしかったです。(満足感と次時への意欲) ・たくさんかざりをつけて可愛くしました。キラキラしているので気に入っています。次の時間も飾りをたくさん付けて可愛くしていきたいです。楽しみです。 	<p>(他者とのつながりによる満足感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生や友達に「こうしたらいよいよ。」とかいろいろアドバイスをしてもらってよくなったのが楽しかった。(完成による達成感) ・どんなのになるか楽しみで、今自分の作品を見てきれいにできてとてもうれしいです。家でもやってみたくまりました。(次の活動への意欲) ・針金でもっといい作品を作りたいと思った。これから、もっと授業が「楽しい」と思うように図工の時間を大切にしようと思いました。いつもより図工の時間が楽しかったです。またしたいです。
「認知的 エンゲージメント」	<p>(イメージに近づける工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしは白鳥を作って、白鳥のくちばしの部分をくるくるにする工夫をしました。(独自の工夫) ・工夫したことは、ランダムに針金をまきつけておもしろくした。 	<p>(創意工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車に立体さを出すようにした。 ・うまくいくようにねじったりして工夫した。 ・丸い形を作ったりして、それをくっつけるのがむずかしくて、ねじるのを工夫した。(挑戦) ・ハートがうまく作れなくて時間がもったいなかったかもしれないけど、挑戦できてよかった。 	<p>(粘り強い取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かざり付けをして、またかざり付けをして、納得いくまでやり続けた。その結果、前からと横は動物、後ろから見ると宇宙に見えた。(挑戦の自覚) ・「新しいやり方やむずかしいかもしれないと思うことに挑戦すること」がよくできたと思います。いろいろな材料を使って工夫してみました。 	<p>(粘り強い取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々な物をやりなおしてやっとしてきて、先生にもアドバイスをもらったので、うれしかったです。 ・最初は形がくずれてしまって新しい形にするのはむずかしかったけれど、何回か形をかえるうちに入れ物の形になったのでうれしかったです。

意志が確認できたので、授業時間外に材料と時間を提示することで作品を完成させ、満足することができた。認知的エンゲージメントに関しては、難易度が高いと思われる方法に積極的に挑戦したり、自分の想いに近づけるために粘り強く取り組んだりする記述が見られたことが成果であると感じられた。認知的エンゲージメントに関連すると考えられる記述が、回を重ねるごとに増えて

いったことも、このことに関する支援が有効に働いていた結果であると考えられる。ただし、ごく簡単な技法の向上を図るために、更なる工夫が求められることがわかった。そのためには、「児童のニーズにどう答えたか」について、改めて考えていく必要がある。例えば、形成的な評価を作品の製作途中で取り入れることにより、活動に対する満足感や充実感がより感じられるようになり、行

動的エンゲージメントや感情的エンゲージメントの高まりや、認知的エンゲージメントに関わりアイデアが生まれるなど新たな工夫へのチャレンジが始まることが期待できる。

本実践のまとめとして、学級全体への支援と個に応じた支援とのバランスをとりながら、ニーズに合わせた適切な課題設定により、難しすぎて諦めることなく、かつ、課題が簡単すぎて飽きのこないようにすることが必要であると感じた。児童のエンゲージメントの向上を図るには、児童の動機付けを高めるための工夫を、児童それぞれのニーズに合わせて適時に的確に行う必要があることが示唆された。

文献

- Fredricks, J.A., Blumenfeld, P.C., & Paris, A.H. (2004) School engagement: Potential of the concept, state of the evidence. *Review of Educational Research*, 74, 59-109
- 鹿毛雅治 (2016) 学習意欲の理論 金子書房
- 栗原慎二・井上弥 (2015) アセスの使い方・活かし方 ほんの森出版 pp.8 - 14
- Lippman, L., & Rivers, A. (2008). *Assessing school engagement: A guide for out-of-school time program practitioners*. Washington: Child Trends.
- 文部科学省 (2017) 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/10/_icsFiles/afieldfile/2016/10/27/1378692_001.pdf
- 森裕一郎・池田誠喜 (2017) 学級集団に焦点を当てた小学生の学校適応感分析の試みー学校適応感尺度「アセス」を用いて 鳴門生徒指導研究 第27号 pp.56 - 67
- 大久保智生 (2010) 青年の学校適応感に関する研究ー関係論的アプローチによる検討ー ナカニシヤ出版
- 大重啓・渡辺弥生 (2008) 親の養育態度が児童の友人関係および学校適応感に及ぼす影響 日本教育心理学会総会発表論文集 50 p.333
- Reeve, J. (2002) Self-determination theory applied to educational settings. In E.L. Deci & R.M. Ryan (Eds.) *Handbook of self-determination research* pp.183-203 Rochester, NY: Rochester University Press
- Reeve, J. (2009) Motivation and engagement. In A. M.O' Donnell, J. Reeve & J.K. Smith (Eds.) *Educational psychology: Reflection for action* (2nd Ed.) pp.366-401 New York, NY: Wiley
- 島井哲志 (2006) ポジティブ心理学 21世紀の心理学の可能性 ナカニシヤ出版
- 山岸鮎実 (2016) 高校生のスクールエンゲージメント尺度の開発 asakura-laboratory.jp/wp-content/.../12/